

# あの遺跡は今！ 17

## —水にまつわる祈り・信仰—

報告会資料・展示解説

森浜遺跡(高島市) ○

清滝寺・能仁寺遺跡(米原市) ○

上御殿遺跡(高島市) ○

多景島遺跡(彦根市) ○

☆ 滋賀県立安土城考古博物館

蛭子田遺跡(東近江市) ○

金森西遺跡(守山市) ○



公益財団法人滋賀県文化財保護協会  
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritage

平成25年7月21日(日)

滋 賀 県 教 育 委 員 会  
公益財団法人滋賀県文化財保護協会

## 整理調査成果中間報告会について

公益財団法人滋賀県文化財保護協会では、滋賀県教育委員会等からの依頼により、県内各地で埋蔵文化財の発掘・整理調査を行っています。発掘調査で得られた情報は、「現地説明会」や「報道発表」などを通じていち早く公表しています。また、滋賀県立安土城考古博物館内の調査整理課では、整理調査の成果についてより深くご理解をいただけるように、整理調査成果報告会「あの遺跡は今！」シリーズを平成17年度から毎年2回実施しています。「あの遺跡は今！」では、新たな資料や成果を公開・展示するとともに、出土品に直接触れていただく整理作業体験やオリジナルグッズ等の製作などを行っています。

今回は、メインテーマを『水にまつわる祈り・信仰』とし、水辺の遺跡から出土することが多い人形代や馬形代などの遺物に焦点をあて、水に託した人々の思いを語る出土遺物の展示と関連遺跡の調査報告会を企画いたしました。

この企画が、滋賀の歴史を体感し、文化財への親しみをお持ちいただくきっかけになれば幸いです。

### 平成25年度に調査整理課で整理調査を実施している遺跡

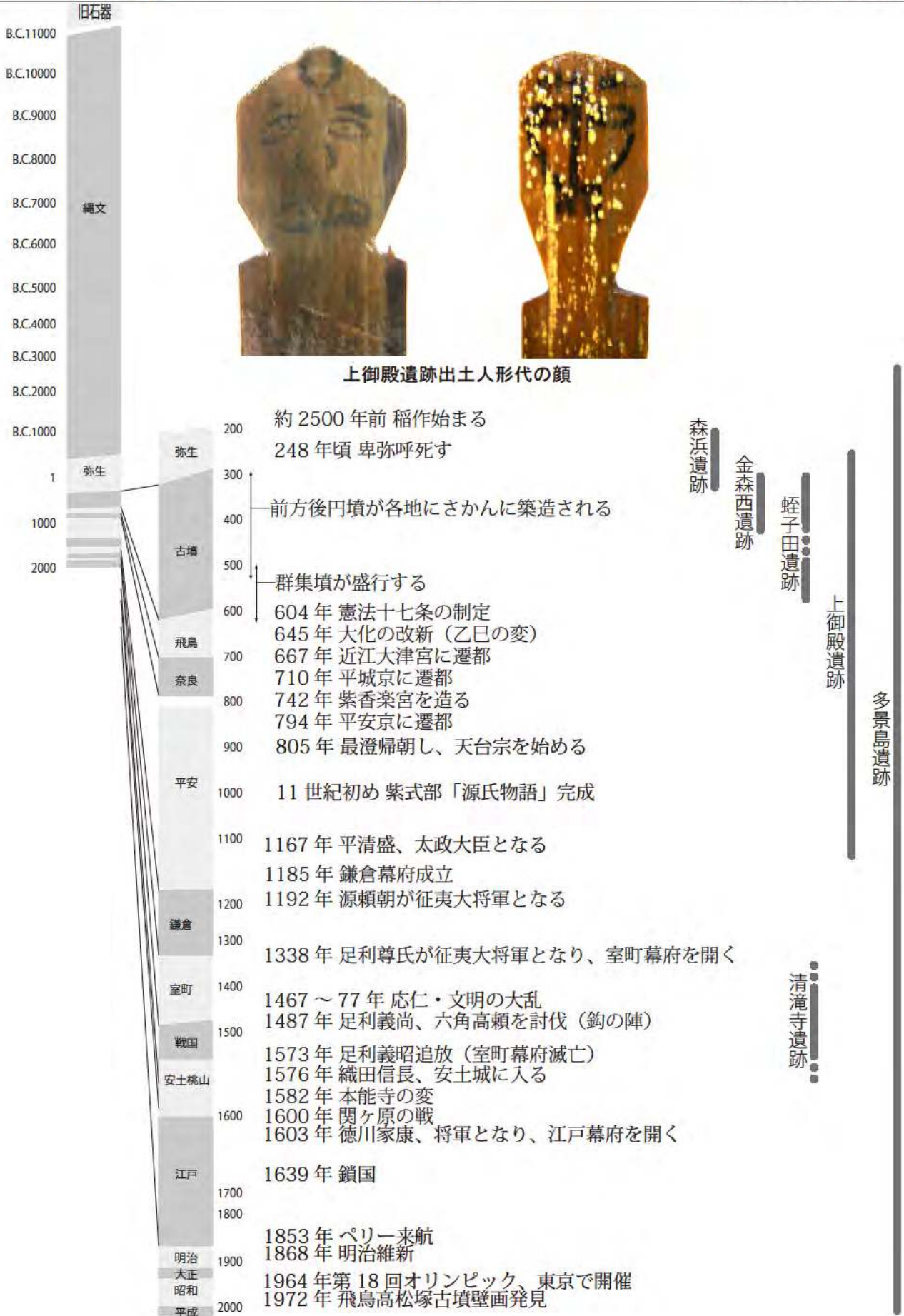
遺跡名	所在地	調査原因	主な時代
清滝寺・能仁寺遺跡	米原市	砂防工事	室町
多景島遺跡	彦根市	琵琶湖総合開発	縄文～昭和
蛭子田遺跡	東近江市	インターチェンジ建設	古墳
長命寺湖底遺跡	近江八幡市	琵琶湖総合開発	縄文～明治
岡山城遺跡	近江八幡市	琵琶湖総合開発	古墳～室町
金森西遺跡	守山市	県道建設	古墳
大溝湖底遺跡	高島市	琵琶湖総合開発	縄文
天神畑・上御殿遺跡	高島市	河川改修	古墳～鎌倉
針江浜遺跡	高島市	琵琶湖総合開発	弥生
森浜遺跡	高島市	琵琶湖総合開発	弥生～古墳
外ヶ浜遺跡	高島市	琵琶湖総合開発	縄文～明治
西浜遺跡	高島市	琵琶湖総合開発	古墳～室町

# 関連年表

時代

主な出来事

今回取り扱う遺跡





多景島は、彦根市八坂町の沖合に浮かぶ島です。周囲およそ 600m で、琵琶湖では沖島、竹生島に次ぐ 3 番目の大きさです。多景島は湖中から突き出たような形状で、近寄るものを寄せ付けぬ威厳を感じさせます。また、見る方向により色々な形に見えることから多景島という名がつけられたと伝えられています。



多景島遠景

湖や海の沖合に浮かぶ島は、信仰の対象になることがよくあり、福岡県の沖ノ島や琵琶湖の竹生島などは古代から連綿と続く信仰の島です。多景島もその一つで、江戸時代に建立された見塔寺(けんとうじ)があります。湖中からは縄文時代から現代に至る多量の遺物が出土し、この島に多くの人々が訪れたことを物語っています。古くから湖上交通の中継地点や目印としての役割をはたしていたと考えられており、古墳時代には甕や壺などの生活用具が出土していることから、生活の場としても利用されていたといえます。

出土遺物の中には、平安京で出土するのと同じ土器やたくさんの銭、「厄除」とスタンプされたカワラケ、経筒やミニチュアの鏡など、島での生活や祭祀に使われたと考えられる遺物が多数あります。



京都産緑釉陶器



畿内産黒色土器



平安京産土師器皿

## 1. 多量の銭が出土

多景島からは、各時代にわたって多量の銭が出土しています。中国の唐の時代に鑄造された開元通寶（かいげんつうほう）から始まって、皇朝十二銭の神功開寶（じんぐうかいほう）や寛平大寶（かんびょうたいほう）、延喜通寶（えんぎつうほう）など日本の古代の銭や、中世の宋銭に代表される渡来銭、そして江戸時代の寛永通寶（かんえいつうほう）、さらに近現代の硬貨などもたくさん出土しています。

これらのお金は、江戸時代の見塔寺（けんとうじ）の存在を考えると、寛永通寶はお賽銭の一部の可能性も考えられます。かつては、この島自体が信仰の対象となっていたことから、島に対する祈りとして湖中に銭を投じることがあったのかも知れません。



開元通寶



寛永通寶



渡来銭



近代貨幣



寛永通寶の緡銭（さしぜに）

## 2. 「厄除<sup>やくよ</sup>け」のカワラケ

多景島の湖底から出土している遺物の種類は多く、その中でも土師器皿が最も数多く出土し、全体の約半分を占めます。これらの土師器皿は一体何に使われたのでしょうか？

まず、食器としての使用方法です。皿として他に同じ土師器の杯や黒色土器の椀・灰釉陶器の椀などの食器がたくさん出土していることから、これらと同じように使用されたと考えられます。

2つめは祭祀に使われた可能性です。近・現代の土師器皿のなかに、内側に「厄除」と刻印されたものがあります。これはカワラケ投げに使用された皿です。カワラケ投げとは、素焼きの皿を数メートル先の輪などに向かって投げ、カワラケがその輪をくぐり抜ければ願いが叶うとされています。カワラケ投げは、京都の神護寺で酒宴の余興として始められたのがそもそもの発祥だと言われ、各地に広まっていったと考えられています。元は「厄除」の文字が無かったと考えられますから、同時に出土しているたくさんの中・近世の土師器皿のなかにも、カワラケ投げなどの祭祀に使われたものがあるのではないかと推測されます。



「厄除」カワラケ



「厄除」がスタンプされる

### 3. 経筒の蓋きょうづつやミニチュアの鏡が出土

多景島には、江戸時代時代に建立された見塔寺の本堂や鐘つき堂があり、日靖上人（にっせいしょうにん）が自ら刻んだという高さ約10mの「題目岩」があります。見塔寺の建立は明暦元年（1655）で、江戸時代になって日蓮宗の寺院がある島として信仰の対象になり、多くの人を訪れることになりました。このことは、江戸時代の陶磁器や寛永通寶などの銭が多量に出土していることからもうかがえます。

江戸時代の前については詳しい資料が無いのですが、室町時代頃と考えられる銅製の懸仏（かけほとけ）が出土しています。懸仏とは銅製の板に仏を半肉彫りや線刻したもので、寺院に奉納され祀られるものです。多景島から出土した懸仏は板を裏から押し出して立体感を持たせたもので、押出仏（おしだしぶつ）と呼ばれています。また、時期は不明ですが、銅製のミニチュアの鏡が出土しています。直径2.1cmの小さな鏡で周縁に小孔が開けられており、紐（ひも）を通して寺院に奉納してぶら下げたか、首からぶら下げてお守りなどの用途に使われたなど色々考えられます。銅製の経筒の蓋も出土しています。かなり腐食が激しく、6弁の花形の摘みと天井部の一部が残っています。経筒は平安時代後期に流行った末法思想による仏滅後の経典の消滅に備える目的でお経を入れて経塚に納められており、青銅、金銅、石、陶器などで作られています。

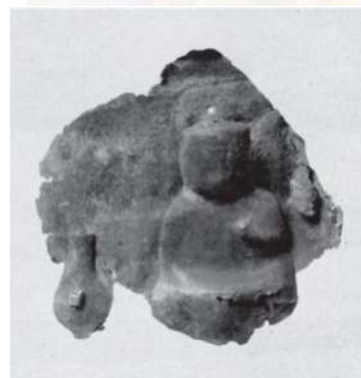
これらの出土遺物は、見塔寺が建立される以前から多景島が信仰の対象であったことを示しています。



経筒の蓋



ミニチュアの鏡



懸仏（かけほとけ）



もりのきみのふなひと  
**どの顔が“守君船人”か**

かみごてん  
**上御殿遺跡（高島市安曇川町三尾里）**

上御殿遺跡は、鴨川広域基幹河川改修事業（青井川）に伴い平成20年度から発掘調査を実施しています。平成24年度は5,000㎡の調査を行い、古墳時代前期から平安時代までの建物跡や川跡が見つかりました。特に、川跡の底近くからは、古墳時代の土器や建築部材などの日常生活にかわる木製品とともに斎串（いぐし）、刀形代などの木製祭祀具や腕輪形石製品（石釧：いしくしろ）などの水辺の祭祀に関する遺物が多く出土しました。さらに、奈良時代から平安時代の層からは、人形代（ひとかたしろ）、馬形代、舟形代、陽物形代（ようぶつかたしろ）、斎串などの木製祭祀具とともに、「守君船人（もりのきみのふなひと）」という人名が書かれた墨書人名土器、呪符木簡など古代の祓（はらえ）に関する遺物も出土し、千年近くも祭場として使われていたことがわかりました。



出土した人形代の顔



人形代や馬形代を代表とする木製の形代を使った祭祀は、当時の都や地方の役所などで行われている儀礼です。高島市内では、上御殿遺跡のほか、旧高島町の鴨遺跡（人形代・陽物形代・斎串）・永田遺跡（陽物形代・斎串）、新旭町の針江北遺跡（人形代）、今津町の日置前遺跡（斎串）で出土しています。これらの遺跡には公的な性格が考えられ、特に、近くに所在する鴨遺跡や永田遺跡との関係が注目されます。さらに、上御殿遺跡の周辺は港（勝野津）が開かれ主要街道（北陸道）が通るなど、北陸と畿内を結ぶ交通の要衝であり、役所やこの地域の豪族の居宅等が多く集まっていたと考えられます。



折り重なるように出土した人形代と馬形代



馬形代(足が付くものもあります。左が頭)

人形代は 51 点、馬形代 23 点が出土し、両方を合わせると県内で一番多い出土数です。このようにたくさんの形代が出土した理由として、実に 300 年以上の長い期間にわたって祓を行っていた点が挙げられます。人形代は、現在でも祭祀の道具として用いられており、紙製の人形に息を 3 回吹きかけて悪気や汚れを人形に移し、清らかな水に流す大祓（おおはらえ）が知られています。また人形代や馬形代と一緒に「守君船人」と 7 列にわたって同じ人名が書かれた墨書人名土器も出土しました。守君船人という人物がこの祓の主役だったのでしょう。この人物は地元の人なのか、都から派遣されてきた役人なのか、7 列にもわたって同じ人名を書いていることから、よほど強い悪気や汚れを払う必要があったのでしょうか。

上御殿遺跡で 1,300 年前から数百年にわたり同じ川で行われつづけた祭祀は、現在の大祓の源流ともいえ、まさに古代のパワースポットといえます。



旧河道内人形代・墨書人名土器出土状況



墨書人名土器「守君船人（もりのきみのふなひと）」

さて、「守君船人」なる人物はどこに住んでいたのでしょうか。人形代、馬形代や墨書人名が出土した川跡の東南側は川底より2 m 以上も高くなっています。ここから、墨書人名土器や形代と同じ時代の奈良時代から平安時代初め頃の掘立柱建物群が見つかっています。南側に桁行2間、梁間2間の倉庫と考えられる建物が9棟、北側に4間×1間以上の居宅もしくは役所の一部と考えられる建物が見つかっています。「守君船人」がこの地に住む地方豪族であるならばその居宅で、都から派遣されてきた役人であったなら役所の建物の一部であった可能性が考えられます。

なお、「守君」は美濃の豪族である牟儀君（むげつのきみ）と同族とされ、水の祭祀に関わる氏族と見られています。県内では琵琶湖対岸の彦根市六反田遺跡の墨書土器に「守君」と書かれた例が1点あります。



奈良時代から平安時代初めの倉庫群



奈良時代から平安時代初めの建物（居宅か役所の建物の一部）



## 水と音のまつり

もりはま  
森浜遺跡（高島市新池町森地先）

湖岸に面した森浜遺跡からは、弥生時代末から古墳時代初頭（3世紀中頃～4世紀）の土器・土製品・木製品が多量に出土しています。今回は、その中からまつり（祭祀）に使われた土器や木製品を紹介します。

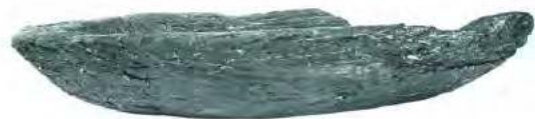
まつりに使う土器には、日常品を利用する場合と、特別な土器＝祭祀土器を使う場合があります。祭祀土器には、①赤色顔料などで彩色した彩色土器②小型で器壁が薄くて日常での使用には適さないが、極めて丁寧に作った小型精製土器③通常の土器を模した小型のミニチュア土器・手捏ね土器があります。①・②は古墳のまつりでも使われ、カミや祖霊への捧げもの・供物を盛る容器類を象徴しています。③はそれをより小型化・簡素化したもので、特に、水辺から多量に出土することから、水が持つ清らかさと永続性に象徴される「浄化」と「再生」を願う祭祀に欠くことのできない道具のようです。

木製のまつりの道具としては、ミニチュアの舟＝舟形代と琴があります。舟形代は、人々の穢れ（けがれ）や厄災を載せる憑代（よりしろ）であり、浄化の願いを込めて水に流します。琴は、カミとの交流をはかるための妙なる音を奏でる場合と、厄災を追い払うために大きな音あるいは酷い音を出す場合があります。「音楽」＝音を楽しむための楽器ではありませんが、まつりには重要な道具です。

このように、森浜遺跡出土の祭祀遺物からは、波打ち際には祭祀土器が並び、湖面に琴の音と舟形が漂う、といった水と音が織り成すまつりの場面が蘇ります。



▲ミニチュア土器・手捏ね土器



▲ミニチュアの舟＝舟形  
ミニチュアと言っても長さは約50cmあります。



## かたしろ 古墳時代の木製形代

### えびすだ 蛭子田遺跡（東淀江市木村町）

蛭子田遺跡の調査では、弥生時代の終わり頃（3世紀中頃）から古墳時代後期（6世紀）にかけて流れていた川跡が何本もみつかりました。それらの川跡からは、土器とともに多量の木製品が出土しました。全国的にも出土事例の少ない壺鐙（つぼあぶみ）や、伐採した痕跡のある原木が何本も出土しており、古墳時代の蛭子田遺跡の性格を物語っています。このほかには、工具や農具・容器・建築部材等が出土していますが、工具・農具といった道具類は少なく、容器・建築部材が比較的多くみられます。また、用いられた樹種もヒノキ・スギで全体の7割ほどを占めていることも大きな特徴のひとつです。

このような多種多様な木製品に混在するように、祭祀に使われたと考えられる木製形代が3点みつかりました。形代とは、実物の代わりにその形をかたどりミニチュア化したもので、神への捧げものと考えられています。みつかった形代は、剣形代・刀形代・舟形代です。剣形代と刀形代はいずれも柄の表現はなく、剣（刀）身と茎部といった鉄製部分だけの形となっています。舟形代は扁平な板状で、先端を尖らし、中をすこし窪ませることによって舟を表現しています。3点の木製形代は、いずれも出土地点が異なり他の木製品や土器に混在して単独で出土しています。木製形代の数量は少なく、大々的に祭祀を執り行ったようすではありませんが、日々の生業のかたわら神へ捧げるため川へ木製形代を投じた状況がうかがえます。



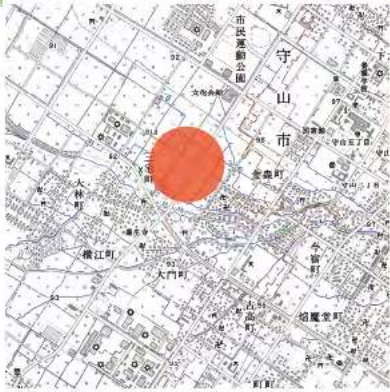
剣形代



刀形代



舟形代



## 古墳時代の玉づくりのムラ

かねがもりにし  
金森西遺跡 (守山市金森町)

金森西遺跡は古墳時代前期（4世紀）を中心とする集落遺跡です。

発掘調査では幾条もの河川跡がみつき、中から多くの土器や木器、石器が出土しました。土器は古墳時代前期のもので、河川はこの頃に流れていたことがわかります。

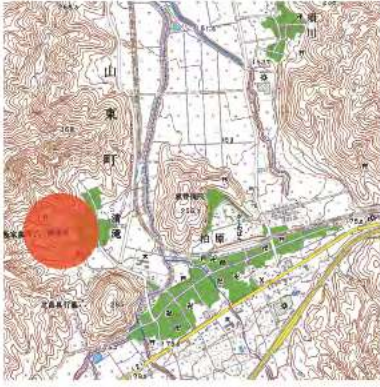
石器には、勾玉（まがたま）や管玉（くだたま）などの玉類、有孔円板と呼ばれる鏡をミニチュア模造した祭祀具などがあります。注目されるのは、これらの未成品や原石、玉砥石が出土していることです。このような遺物は、過年度に行われた当遺跡のほかの調査地点からも出土しており、金森西遺跡では 1,600～1,700 年前に玉類や石製模造品などの石製祭祀具を盛んに製作していたことがわかりました。

玉の原材料には碧玉や緑色凝灰岩などが使われています。これらの石は地元で産出する石ではなく、日本海側地域からもたらされたものです。金森西遺跡の人びとは、それらの地域との交流を通して原石を手に入れ、玉類など祭祀具に加工していたのです。



出土した玉類

- 1：勾玉未成品
- 2：勾玉
- 3～5：管玉
- 6・7：有孔円板
- 8：有孔円板未成品
- 9：紡錘車
- 10：碧玉原石
- 11：玉砥石



# 名門・京極家の拠りどころ

～七百年続く菩提寺～

きよたきでら のうにんじ  
清瀧寺遺跡・能仁寺遺跡 (米原市清瀧)

「清瀧寺(せいらゆうじ)」は鎌倉時代中頃に建てられた名門・京極家の菩提寺(ぼだいじ)です。平成20年度から始まった発掘調査では、この寺院にかかわる室町時代後半から江戸時代前半の建物や参道、五輪塔(ごりんとう)の供養塔を使った井戸などが見つかりました。さらに「仁」の文字の書かれた土器や木製品とともに、京極高詮(きょうごく たかあきら)の「能仁寺」と思われる建物や庭などの寺跡がみつかりました。遺跡からは武家の名門、寺院を偲ばせる輸入陶器、瓶子、香炉や鉄釘、仏具等の金属製品がみつかっています。

京極氏は戦国時代前半まで幕府の高級官僚として、また、近江の北半分を治める有力守護大名として活躍しています。江戸時代になりますと小浜(福井県)、松江(島根県)、播磨龍野(兵庫県)、そして讃岐丸亀(香川県)藩主となり、幕末を迎えます。このように、京極氏は近江から離れてしまうにもかかわらず、信仰の対象として、自らのルーツを示す場所として、いつも近江清瀧にある菩提寺を気にかけて、訪れ、整備をしています。こうして清瀧寺は形をかえながら現代まで約七百年にわたって続いており、歴代の墓所(国史跡)があります。まさに、京極氏の”拠りどころ”といえます。



↑「仁」の文字の書かれた土器  
「能仁寺」の「仁」と思われる。

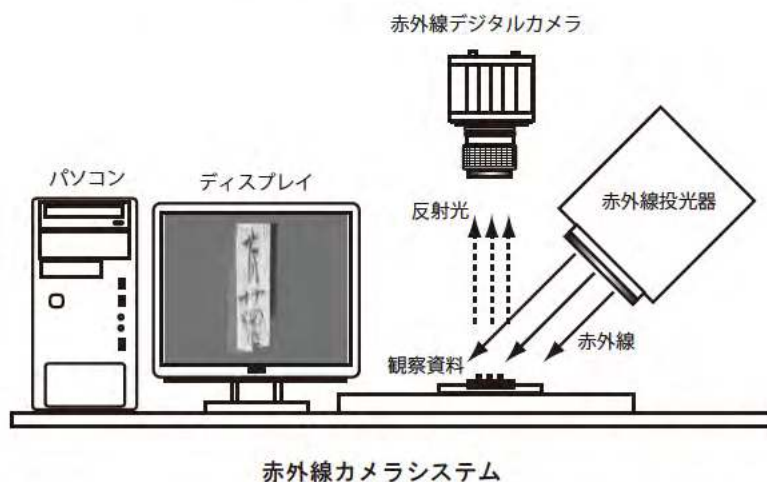
←みつかった「能仁寺」跡  
中央下からのびる参道の  
奥に建物や庭がみつかりました。

## ほくしょ 赤外線による墨書資料の調査

墨書資料の種類には、古代の文字や記号が木に書かれた木簡をはじめ、人形代や墨書土器などがあります。これらの資料は、遺跡に埋もれている間に少しずつ墨が薄くなっていきます。こうした墨書資料の観察には、赤外線カメラが威力を発揮します。

赤外線を利用することで、なぜ文字が判読できるのでしょうか。それは赤外線が墨の主成分である炭素をよく吸収するためです。赤外線によって墨はより黒く映し出されるとともに、一見して消えたように見えている墨跡も赤外線がすばやく反応します。

赤外線カメラのシステムは、カメラ本体と赤外線フィルター、赤外線投光器、そしてパソコンとディスプレイで構成されています。カメラにより取り込まれた画像は、専用のコンピュータソフトによりディスプレイの画面に映し出される仕組みになっています。



上御殿遺跡出土桧扇（ひおうぎ）





## 夏～秋のイベントのご紹介

月 日	時 間	イベント内容		定員	場 所
7月13日(土)～ 10月11日(金)	9時00分～17時00分	テーマ展3 装いの考古学	展示		安土城考古博物館 第1常設展示室
7月28日(日)	13時30分～	装いの考古学	講座	140名	安土城考古博物館 2Fセミナールーム
7月17日(火)～ 9月1日(日)	9時00分～17時00分	テーマ展4 地獄の情景 part2	展示		安土城考古博物館 第2常設展示室
8月11日(日)	15時00分～	近江の仏教美術から みる地獄の情景	講座	140名	安土城考古博物館 2Fセミナールーム
8月13日(火)	15時00分～17時00分	勾玉をつくろう!! (夕涼み)	体験	先着 30名	安土城考古博物館
7月20日(土)～ 9月1日(日)	9時00分～17時00分	レトロ・レトロの展覧会	展示 体験		滋賀県埋蔵文化財センター